

私は昭和 13 年、今の日赤構内の敷地にあった進徳高女を卒業し、日赤看護学校で 3 年教育を受け、昭和 16 年卒業、招集を受けました。

これが招集令状の（赤紙）です。日赤看護学校を卒業し招集令状を受けると、12 年間何があっても強制的に出征され、（赤紙）は兵隊さんと一緒に私たち女性にも来るんです。あの時代は、戦地に行くということは大変名誉なことでした。

それから、最初は陸軍病院でしたがその内にフィリピンの 103 海軍病院に転属しました。ちなみに 101 はシンガポール、102 はスマトラの海軍病院です。それから間もなくして、太平洋戦争という過酷な時代を生きて、昭和 21 年 2 月に招集除隊になりました。

フィリピンではまず最初に、キャビという元アメリカの海軍基地にあった病院に行きましたが、ここで驚いたのは、内地ではガーゼは膿を付いていたのを洗って使っていたのですが、アメリカの病院はガーゼは使い捨てでした。また、病院の中に教会・ボーウリング場・幼稚園・氷を作る所などがあり、いきなりアメリカの偉大さを感じましたし、こんなえらい国と戦争しても負けるな、どうしてこんなバカな戦争を…と思いました。

その後、マニラの本院に転属になりました。

私たちが勤めていた昭和 19 年 10 月に、ちょうど戦艦武蔵がフィリピンの島で、アメリカの攻撃で沈没を受けるんです。生き残った兵隊が私たちの病院に收容され、たちまち病院はタンカで運ばれてくる兵隊さんでいっぱいになり、タンカに乗せたまま廊下に患者さんを並べている状態でした。

印象に残っているのは、若い将校がタンカで運ばれてきて「東に向かして下さい」と言うんですね。おっしゃるように東に向けると「天皇陛下万歳、お母さん…」と言ったまま亡くなりました。

今でしたらその方の名前を聞いて、ご遺族の方にご報告できたらよかったでしょうに、戦争のさなかですから、次から次と亡くなって行って、私たちも不眠不休で、空襲はありますし、大変な時代を経験させてもらいました。

ふしぎなことに、戦争というものは人間の感性を麻痺させてしまうんです。死ぬることは一つも怖くないんです。私たちも、万一見苦しい死に際に遭遇したらと、毎日清潔にして青酸カリをカプセルに入れ、毎日生活していました。

マニラは昭和 19 年 10 月 11 日でしたか、大空襲が始まったんです。それから間もなく最初の少年特攻隊が、「ここに写真持って来ています」マニラ近郊のマバラカット飛行場から、昭和 19 年 10 月 25 日ゼロ戦に乗って飛び立ちみんな帰らぬ人となりました。

そして、私は戦艦武蔵の生き残った油まみれ、血まみれ、ひどい火傷の兵隊さんを看てきました。戦艦として有名なのは大和です武蔵は戦って沈んだんです。大和は特攻出撃し 3000 名にも及ぶ若い兵士を乗せて、戦わずして沈んだんです。

武蔵を忘れないで欲しいですが、前途ある若い兵士を見殺しにしたこんな特攻作戦、今でも情けなく憤りを感じます。

マニラではその当時、内地からの舟が途絶えて食糧もままならず現地調達で、雨が降ったあとカタツムリが現れるのを食べたり、味噌というのは石鹼臭いやシ味噌を食べていました。医薬品もなく、リンゲル液の代用にココナツの実の液を栄養剤として注射するなどあるものを利用する状況でした。

後に内地に引き上げた時、外地から帰った人はみな独特の青黒い顔をして、外地帰りというのが一目で分かりました。

帰国命令はいきなり「看護婦は足手まといになるので、明日帰りなさい」といわれ、昭和20年1月9日病院船の氷川丸に乗りました。その頃日本には燃料の油がないのでシンガポールに向かいましたが、1時間出発が遅れていたら、上陸作戦をするアメリカの大艦隊と正面衝突するところでした。シンガポールでは、アメリカはみんな分かっているんですね、病院船にもかかわらず空襲を受けました。

私たちがマニラを発った翌日のことですが、こんなことを話していいかどうかあれですが、『「重症患者は足手まといになる」と、クレゾール注射をして病院に残し、元気な患者を連れて山の中に逃げ込んだ』と終戦後の戦友会で誰かが話されていました。

昨年、NHKで「女たちの太平洋戦争」という番組が2回にわたって放送されましたが、その中で私の友達も出演し、山下司令官たちと山の中をさまよい、ベルトの革を水に浸して分け合って食べる、そんな悲惨な状況だったと話していました。

この番組は、後にギャラクシー賞を受賞し、世界にも配信されたそうです。

内地には昭和20年1月別府の海軍病院に着いて、その寮に住んでいました。その別府でも、海岸にあった寮に帰るのに田んぼの中を近道をしていると、夕暮れ近くにアメリカの機銃掃射を受け、伏せてようやく助かりました。その後昭和21年2月招集解除されました。

私は帰ってしばらくしてABCCに勤めて、それからNTTに勤め退職して、99歳6カ月で亡くなった母を17年間看病しました。

私はこの7月26日で96歳になったばかりですが、今の時代は戦争がなくて、日本みたいな幸せな国はないです。世界で一番幸せな国だと思います。みなさんには、日本人として誇りを持って生きて行って欲しいです。

2017年7月29日

ふりかえりの塔慰霊祭 佐々木コズエ

☆ 佐々木さんのお話は、参加された皆さんからの質問に答えるような形式をまとめた文章です。一部お礼に伺った時にお話しされた部分もあります。